

排水機場訪問記

「水が語るもの」編集パートナー 梅田 和男
(近畿水管理・国土保全研究会)

はじめに

平成26年8月豪雨は由良川中流域の福知山市街地に甚大な被害をもたらしました。今回は水害の概要と近畿地方整備局(国)・京都府・福知山市の三者連携により平成26年12月24日にとりまとめられた「由良川流域(福知山市域)における総合的な治水対策について」(以下、「総合的な治水対策」)の内容と本対策における近畿地方整備局(国)の取組について紹介しました。

京都府の取組について

京都府中丹西土木事務所河川砂防課長の常岡信希さんにお話を伺いました。



中丹西土木事務所
河川砂防課長
常岡 信希さん

平成26年8月豪雨での浸水被害の要因と府の取組について教えてください。
京都府は福知山市街地を流れる弘法川、法川等を管理しています。国が管理する由良川の水位が高くなると弘法川、法川への逆流防止のため由良川本川の樋門が閉鎖されます。そこで樋門閉鎖中にも弘法川、法川

を超える水を荒河調節池で一時的に貯留することにより弘法川の水位上昇を一定抑制する効果があります。

——河川改修が実施された弘法川と法川の現状と課題はありますか。
弘法川と法川は、平成26年8月豪雨災害当時、未改修区間から溢水するなどの浸水被害が生じたため、翌平成27年度から床上浸水対策特別緊急事業等により短期集中的に河川改修に取り組み、令和2年5月に概成したところでした。



弘法川の河川改修
(JR山陰本線付近)

今後は、気候変動による水害リスクの増大に備えるため、流域のあらゆる関係者が主体的に取り組む「流域治水」を推進していく必要があると考えています。

福知山市の取組について

福知山市建設交通部次長兼道路河川課長(令和6年2月取材当時)の清水俊行さんにお話を伺いました。

ける近畿地方整備局(国)の取組について紹介しました。
今回は「総合的な治水対策」における京都府及び福知山市の取組等について関係者のお話を中心に紹介します。
(由良川流域の概要、平成26年8月豪雨災害の概要は「水が語るもの」第27号参照。)

の洪水を由良川に排水できるよう国が排水機場を設置していました。

平成26年8月豪雨では、気象庁福知山観測所において観測開始以来最大の335mm/2日を記録。弘法川、法川流域では既存排水機場及び排水ポンプ車により内水排除が実施されましたが、排水能力を上回る豪雨であったため、床上浸水2,029戸、床下浸水2,471戸の甚大な浸水被害が発生しました。

そこで、災害直後に国、京都府、福知山市が「由良川流域(福知山市域)における総合的な治水対策協議会」を立ち上げ、三者連携による概ね5か年の短期対策として同規模の



福知山市建設交通部次長
兼道路河川課長
(令和6年2月取材当時)
清水 俊行さん

——地元自治体として平成26年8月豪雨災害をどう受け止めていますか。
福知山市は平地で勾配が緩いため、洪水が溜まりやすく内水の影響を受けやすい地形です。これまでも台風等に伴う由良川の洪水により何

度も被害を受けてきましたが、平成26年8月豪雨では、局地的集中豪雨により市内の各地区において内水氾濫や土砂災害が発生しました。被災直後は自衛隊や消防による救出救護活動が行われ、その後の被災者支援活動などでは、京都府や府内自治体のみならず、府外からも支援を受けました。



福知山市内の浸水状況【出典】福知山市

本豪雨が福知山市街地に未曾有の被害をもたらしたことから、国及び府と連携し、「総合的な治水対

「総合的な治水対策」対策一覧

国の施設	
既設	弘法川・荒河排水機場 常設 10 m ³ /秒 法川排水機場 常設 12 m ³ /秒
新設	弘法川・荒河排水機場 可搬式+3 m ³ /秒 弘法川排水機場 常設 +9 m ³ /秒 排水ポンプ車ピット11 m ³ /秒相当 法川排水機場 可搬式+15 m ³ /秒
府の施設	
新設	弘法川・新荒河排水機場 常設 +11 m ³ /秒 弘法川・荒河調節池 31 万 m ³ 弘法川・法川河川改修 弘法川 L=1.4 km 法川 L=0.83 km
市等の施設	
既設	[下水] 和久市ポンプ場 常設 8.4 m ³ /秒
新設	[下水] 和久市ポンプ場 常設 +1.0 m ³ /秒 合流区域集水管増強 貯留施設等整備 10,000 m ³
[その他]	オンサイト貯留 20,000 m ³ 調整池等整備 210,000 m ³ ソフト対策 内水ハザードマップ作成による避難警戒意識啓発等

国、京都府、福知山市各々の役割分担

- 国** 由良川本川の樋門閉鎖により生じる内水被害軽減対策
- 府** 弘法川と法川の河川改修、内水被害軽減のための調節池、排水ポンプ新設等
- 市** 下水道の雨水ポンプ増設、流域での雨水流出抑制の調整池、内水ハザードマップ作成等



荒河調節池と新荒河排水機場【出典】京都府中丹西土木事務所

豪雨に対して床上浸水被害の概ね解消を目指す「総合的な治水対策」が同年12月に取りまとめられました。京都府では弘法川・法川の氾濫による被害軽減を図るための河川改修を行うとともに、由良川本川の樋門閉鎖により生じる内水被害の軽減を図るため調節池及び排水機場を弘法川下流に新設しました。

——京都府が弘法川下流に新設した新荒河排水機場と荒河調節池はどのような働きでしょうか。
国は弘法川の内水対策強化のために弘法川放水路の排水機場を新設し、荒河排水機場の緊急排水ポンプを増設しました。京都府が弘法川下流に新設した新荒河排水機場は、由

策」を実施しました。

——平成26年8月豪雨被害に対する福知山市の取組について教えてください。
福知山市では、関係部局が連携してハード対策とソフト対策に取り組まれました。ハード対策として

は、弘法川及び法川の上流域において、廃池となった農業用ため池を活用するなどにより新たに調整池を整備しました。さらに農業部局による既存の農業用ため池の改修・活用によって、弘法川流域に10万m³、法川流域に11万m³の新たな貯水容量を確保しました。下水道関係では、平成26年8月豪雨で被災した既存の和久市ポンプ場



福知山市の内水ハザードマップ【出典】福知山市資料



福知山市が整備した桃池調整池【出典】福知山市

に止水壁の設置及び1m³/秒のポンプ設備の増強を実施するとともに、法川流域には1万m³の雨水貯留施設を新たに整備しました。この雨水貯留施設については、市街地の公園や中学校グラウンドの地下などに埋設し、豪雨の際には、道路側溝等の排水施設で処理しきれない雨水を一時的に貯留し、周辺の浸水を防ぐ機能を有しています。

ソフト対策としては、雨水流出を抑制するために家庭用の雨水貯留槽設置者に対して補助金を交付するなど各戸貯留の促進をしています。また、円滑な避難や浸水被害軽減を目的に、各自治会と危機管理部局が一体となってマイマップ・マイトライムの作成、自主防災組織の設置促進、内水ハザードマップの市内全戸配布、土のうステーション設置など、多様な対策を実施しています。

——ありがとうございました。